

## 2. 導入準備

---

### 2.1 CATP-Auto のインストール

CATP-Auto は以下の手順に従ってインストールしてください。

- (1) CATP-Auto は、CATP サーバとの通信のため、インターネットエクスプローラ 3.0 の DLL(Dynamic Link Library)を利用します。そのため、CATP-Auto をインストールするパソコンにインターネットエクスプローラ 3.0 がインストールされていない場合は、はじめにインターネットエクスプローラ 3.0 をインストールしておく必要があります（Netscape では代用できません）。インターネットエクスプローラ 3.0 はマイクロソフトのホームページ等からダウンロードできます。なお、インターネットエクスプローラ 4.0 をインストールした環境ではサーバ通信ができない障害が確認されていますので、インターネットエクスプローラ 4.0 と CATP-Auto を同じ PC にインストールしないようご注意ください。
- (2) CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットして、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」より CATP-Auto をインストールしてください。詳細は CATP-Auto のディスクと同時に配布される「インストール手引き」を参照してください。
- (3) NEC の PC98 シリーズで、インストール先のフォルダを特定の名称に変更すると、インストールが正常に行えない現象が確認されています。PC98 シリーズにインストールされる場合は、インストール先をデフォルトのフォルダのままにしておくようお願いします。
- (4) インストールの終了後、2.2、2.3 に従って、CATP-Auto の実行に必要なオプションの設定を行ってください。

## 2.2 CATP-Auto のオプション設定

CATP-Auto のインストールが終了したら、最初に CATP-Auto の利用環境の設定を行います。CATP-Auto には、CATP-Auto のオプション選択画面から設定するオプションと、関連ファイル（フィールド名読み換えテーブル、Vol 正規化テーブル）をエディタ等で直接編集して設定するオプションの 2 種類があります。

最初に、CATP-Auto のオプション選択画面から設定するオプションについて説明します。

CATP-Auto をインストールすると、スタートメニューに「CATP-Auto 自動所蔵登録クライアント」の起動アイコンが登録されます。これを選択して CATP-Auto を起動すると、最初に下の画面が表示されます。ここで、オプション・ボタンを押すとオプション設定画面に切り替わります。

図 2.2 CATP-Auto のメイン画面



オプション設定画面には、「サーバ」、「ファイル」、「出力編集」、「Vol 処理」、「その他」の 5 種類の設定があります。それぞれ画面上方のタブをクリックすることにより、各設定画面を切替えることができます。各画面で必要な項目を入力し、OK ボタンを押すと、設定内容が保存されます。一度設定した内容は、CATP-Auto を終了しても有効になりますので、設定内容に変更がない限り、毎回オプションを設定しなおす必要はありません。

CATP-Auto のオプションは、既定値を変更しなくても初期設定のままでも通常の運用が可能ないように設定されています。ただし、オプションの規定値を変更しない場合でも、最低限、次のページで説明する CATP サーバの URL と、目録システムの利用者 ID、パスワードだけは必ず設定する必要があります。

(1) サーバ設定画面

オプション設定

サーバ | ファイル | 出力編集 | VOL処理 | その他

URL

プロキシを使用

プロキシサーバ名

プロキシポート番号

利用者ID

パスワード

OK キャンセル ヘルプ

サーバ設定画面では、以下の4項目の設定を行います。

● URL	自動登録を行う学術情報センターのサーバのURLを指定します。インストール直後は教育用のURLが設定されています。利用する業務に応じてURLを変更してください。
● プロキシを使用	プロキシ・サーバを利用する場合、このチェックボックスをチェックし、プロキシサーバ名およびプロキシポート番号を指定します。ここで入力するプロキシサーバ名、プロキシポート番号の設定内容については各機関のネットワーク担当部門へお問い合わせください。
● 利用者ID	学術情報センター目録システムの利用者IDを入力します。従来の目録業務で利用していた利用者IDがそのまま利用できます。
● パスワード	学術情報センター目録システムのパスワードを入力します。入力したパスワードは「*」でマスク表示されます。従来の目録業務で利用していたパスワードがそのまま利用できます。

## (2) ファイル設定画面



ファイル設定画面では、CATP-Auto の処理で利用する以下のフォルダのパスと、ファイル名で使用する拡張子を指定します。なお、既定値としては CATP-Auto インストールフォルダの配下に以下の各フォルダが設定されています。そのまま利用する場合は設定を変更する必要はありません。

各ファイルの意味は、以下のとおりです。

● アップロードファイル	検索キー、登録データ、処理コマンド等を収納するファイル
● ブルーファイル	自動登録が成功したレコードの処理結果を出力するファイル
● エラーファイル	自動登録が失敗したレコードの処理結果を出力するファイル
● ダウンロードファイル	ローカルデータベースへの登録用に、自動登録が成功したレコードを、出力するファイル
● 一括処理用アップロードファイル	所蔵ルートで一括処理を行う際のアップロードデータを収納するファイル
● 一括処理前保存ファイル	所蔵ルートで一括処理を行う際の前処理結果が保存されるファイル # ページの B-2 参照

### (3) 出力編集設定画面

オプション設定

サーバ | ファイル | 出力編集 | VOL処理 | その他

プルーフファイル

図書書誌レコード\* 1: 簡易形式

図書所蔵レコード\* 1: 簡易形式

雑誌書誌レコード\* 1: 簡易形式

雑誌所蔵レコード\* 1: 簡易形式

ダウンロードファイル

図書書誌レコード\* 2: 詳細形式

図書所蔵レコード\* 2: 詳細形式

雑誌書誌レコード\* 2: 詳細形式

雑誌所蔵レコード\* 2: 詳細形式

図書書誌親レコード\* 2: 詳細形式

著者名典拠レコード\* 2: 詳細形式

統一書名典拠レコード\* 2: 詳細形式

OK キャンセル ヘルプ

出力編集設定画面では、プルーフファイルとダウンロードファイルの出力形式をプルダウンメニューにより指定します。各項目について、0:出力なし、1:簡易形式、2:詳細形式、9:全レコードが選択できるようになっています。

このオプションも、通常は既定値のまま変更する必要はありません。

#### 〔簡易形式のプルーフファイルの例〕

```
/* 1998/04/22 18:09:33 */  
FTITLEKEY:体系経済学辞典      ED:第 6 版      LOC=開架      CLN=330.23  
_DBNAME_:BOOK  
ID:BN00802176  
TRD:体系経済学辞典 / 高橋泰蔵,増田四郎編集  
ED:第 6 版  
PUBL:東洋経済新報社 PUBDT:1984.11  
_DBNAME_:BHOLD  
ID:CC0082387001  
FANO:FA001787  
LIBABL:東大総  
LOC:開架
```

〔 詳細形式のブルーファイルの例 〕

```

/* 1998/04/22 18:17:14 */
FTITLEKEY:体系経済学辞典      ED:第 6 版      LOC=開架      CLN=330.23
_DBNAME_ BOOK
ID:BN00802176
CRTDT:19870410
RNWDT:19870410
RNWFA:FA001787
ISBN:4492010041 PRICE:8200 円
NBN:JP85015520
YEAR1:1984
CNTRY:ja
TLL:jpn
TXTL:jpn
TRD:体系経済学辞典 / 高橋泰蔵,増田四郎編集 TRR:タイケイ ケイザイガク ジテン
ED:第 6 版
PUBP:東京 PUBL:東洋経済新報社 PUBDT:1984.11
PHYSP:1314p PHYSS:22cm
AID:DA00596895 AHDNG:高橋, 泰蔵(1905-) AHDNGR:タカハシ, タイゾウ AF:編集
AID:DA00380943 AHDNG:増田, 四郎(1908-) AHDNGR:マスダ, シロウ AF:編集
CLSK:NDC8 CLSD:330.33
CLSK:NDLC CLSD:D2
CLSK:NDLC CLSD:DA1
SHT:NDLSH SHD:経済学 -- 辞書 SHK:L
_DBNAME_ BHOLD
ID:CC0082387001
CRTDT:19980422
RNWDT:19980422
BID:BN00802176
FANO:FA001787
LIBABL:東大総
LOC:開架
CLN:330.23

```

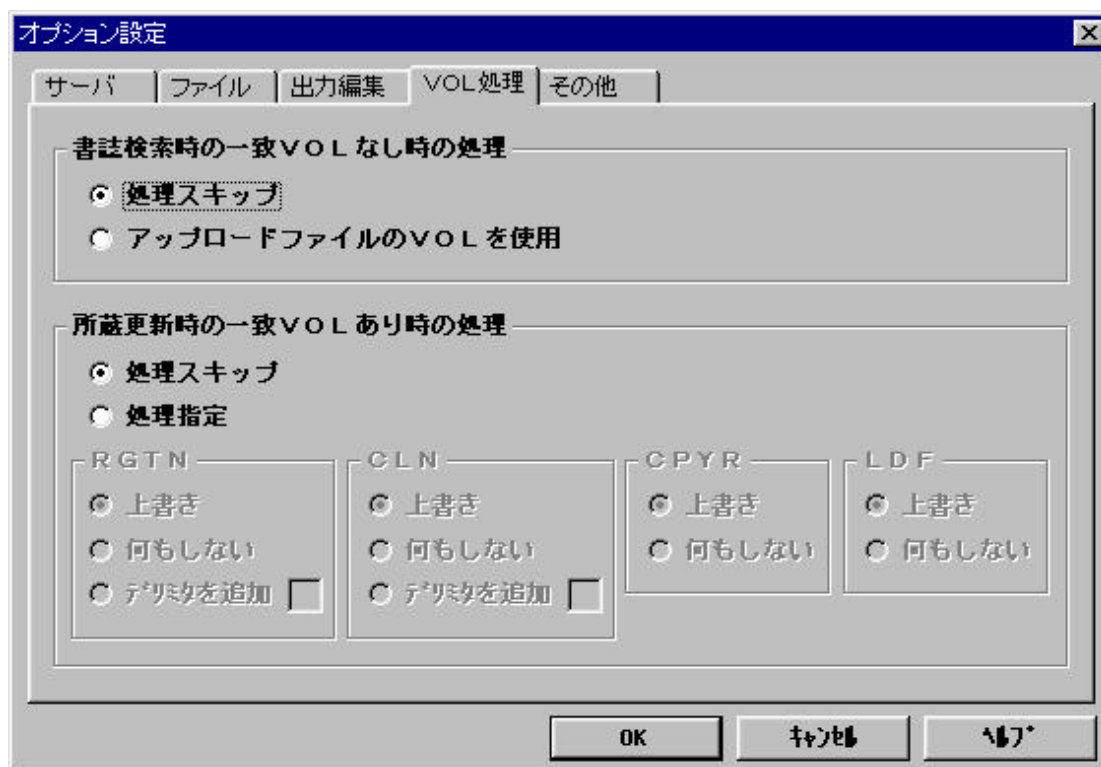
〔 ダウンロードファイルの例 〕

```

000501BO0001FI_DBNAME_      BOOK
000501BO0002FIID            BN02364091
000501BO0003FICRTDT         19880723
000501BO0004FIRNWDT         19960606
000501BO0005FIRNWFA         FA005358
000501BO0006STYEAR
000501BO0007FIYEAR1         1977
000501BO0008ENYEAR
000501BO0009FICNTRY         ja
000501BO0010FITLL           jpn
000501BO0011FITXTL           jpn
000501BO0012STTR
000501BO0013FITRD            微細と極大 / 石元泰博撮影 ; 杉浦康平構成・造本
000501BO0014FITRR            ビサイト キョクダイ
000501BO0015ENTR
000501BO0016STVT
000501BO0017FIVTK           OH
000501BO0018FIVTD           Microcosmos and macrocosmos : detailed photographs of the
two mandalas
000501BO0019ENVT
000501BO0020STPUB
000501BO0021FIPUBP           東京
000501BO0022FIPUBL           平凡社 ; 1977.7
000501BO0023ENPUB
000501BO0024STPHYS
000501BO0025FIPHYSP         図版 200 枚

```

#### (4) Vol 処理設定画面



Vol 処理設定画面では、書誌検索時に一致 Vol が無かった場合の処理方式と、所蔵更新時に一致 Vol があった場合の RGTN、CLN、CPYR、LDF の処理方式をラジオボタンで指定します。このオプションの詳細については、4.1(3)を参照してください。

(5) その他の設定画面



その他の設定画面では、サーバ側の過負荷を回避するため、コマンドの連続実行のインターバルをミリ秒単位で指定する実行遅延タイムと、アップロードファイルやブルーフファイルを参照・修正する際のエディタ・ワープロ等の外部プログラムが指定できるようになっています。実行遅延タイムについては、学術情報センターの指示に従い、適切な値を設定してください。



## 2.3 関連ファイルの設定

### (1) フィールド名読み換えテーブル(FieldCnv.txt)の設定

アップロードファイル中で指定する検索フィールド名および登録フィールド名は、初期設定では、新目録所在情報システムのDBフィールド名をそのまま指定するようになっています。しかし、CATP-AutoをインストールしたディレクトリにあるFieldCnv.txtをエディタやワープロを使って修正することで、任意の名前を総合目録データベースのフィールド名と対応付けすることができます。FieldCnv.txtは、1行1データの形式で、アップロードファイルで使用するフィールド名と新目録所在情報システムのDBフィールド名称をタブで区切って入力します。

なお、FieldCnv.txtで設定していないフィールド名に関しては、新目録所在情報システムのDBフィールド名が既定値として使用されます。

〔FieldCnv.txt の設定例〕

ISBN	ISBNKEY
ISSN	ISSNKEY
YEAR	YEARKEY
LANG	LANGKEY
TITLE	TITLEKEY
AUTH	AUTHKEY
PUB	PUBLKEY
PLACE	PLACEKEY
SH	SHKEY
MLID	ID
AREA	KENCODE
MLNM	NAMEKEY
SAID	SAFID
ATE	TIMEEV

↑ アップロードファイルのフィールド名

↑ 新目録システムのフィールド名

### (2) Vol正規化辞書ファイル(volreg.dic)の設定

書誌レコード中の出版物理単位を特定するとき、アップロードファイルで指定したVolと書誌レコード中のVolとが比較されます。また、所蔵レコード中の出版物理単位を特定するときも、登録しようとするVolと所蔵レコード中のVolとが比較されます。

しかし、Volにはデータ記述のゆれがありますので、機械的な比較は実際的ではありません。CATP-Autoでは、Volの文字列を正規化した上で比較するようになっています。この正規化に用いられるのが、Vol正規化辞書ファイルです。

Vol正規化辞書ファイルは、基本的には出荷時の設定のままでもかまわないのですが、必要に応じて変更することができます。内容は、正規化パターンテーブル、文字型巻号テーブル、漢数字テーブル、2バイト数字テーブルから構成されていますが、このうち、正規化パターンテーブルと文字型巻号テーブルは内容を変更(追加、削除)することができます。漢数字テーブルと2バイト数字テーブルについては、プログラム内部の変換処理で利用しているため、いかなる場合であっても内容を変更してはいけません。

正規化パターンテーブルには、  
 \_巻、\_編、第\_輯、第\_巻、\_年、\_年版、Vol.\_、V.\_、Bd.\_  
 等のデータが登録されています。比較対象の Vol データが登録されているパターンであるときには、前後の文字列は無視されて、アンダースコア“\_”の部分のみが比較されます。ただし、“\_”は数字または文字型巻号テーブルに登録してある漢字でなければなりません。なお、数字は、1 バイトアラビア数字、2 バイトアラビア数字、漢数字のいずれであっても同じ数字として比較されます。一方、文字型巻号テーブルには、上、中、下、前、後 等順序付けを表す漢字 1 文字が登録されています。  
 データは、行の先頭から任意文字列 + [CRLF]の形式で 1 データ 1 行として記述します。

〔Vol 正規化辞書ファイルの設定例〕

```

;
[正規化パターンテーブル]
_巻
  _期
  _集
  _篇
  Tome _
  V. _
  Vol. _
  Volume _
  第_巻
  第_期
;
[文字型巻号テーブル]
上
中
下
前
後
正
;
[漢数字テーブル]
.
.
.
;
[2 バイト数字テーブル]
.
.

```